
メテオールを超える力

仮面ライダー スラッシュ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メテオールを超える力

【Nコード】

N7007X

【作者名】

仮面ライダースラッシュ

【あらすじ】

遊戯王をウルトラマンの世界にぶち込んでみた話。
過度な期待はしないでください。

始まりの拳

タスケ ジンカSIDE

突然だが今日、俺が転生して18年が過ぎた。

前の世界で死んでから神に出会い転生先の世界はランダムに決め、遊戯王のカードを実体化させ事ができるデュエルディスクをもらった。

そしてこの世界に来て2歳の頃、この世界のお爺ちゃんの話で俺のいる世界が分かった。

お爺ちゃんは昔、ウルトラマンに助けってもらっていたと俺によく話してくれた。

そして、今この世界にはGUY Sが有る。

つまり、此処はウルトラマンメビウスの世界らしい。

4ヶ月前の新聞でイカルガジョージがサッカーをやっている所からまだ原作前らしい。

勿論GUY Sに入るつもりだ。

明々後日には俺もGUY Sクルーの仲間入りらしい。

そして今日、避難警報が発令されディノゾールが町に来た。
(召喚したモンスターは俺から離れすぎると消えるため、宇宙で撃退は不可能だった。)

しかし、俺というイレギュラーのせいかディノゾールは2体来た。

暫くしてメビウスが来たが2体相手に苦戦しているらしい。

1体を隙を見て倒したが、まだ1体残ってる。

仕方がないか……

「装備魔法発動！光学迷彩アーマーをDホイールと俺に装備！」

神様が気を利かせてくれてDホイールまでくれてよかったぜ。

「攻撃表示でジャンクシンクロンを召喚！！」

機械の様な黄色の服を着た戦士が現れる。

なお、モンスターは攻撃力が1900以下だと人間サイズ、攻撃力2000以上だとウルトラマンの半分、攻撃力4000以上でウルトラマンと同じだ。

Dホイールで走りながら、モンスターを召喚して行く。

「ボルトヘッジホッグを召喚！！」

ネジが背中についたネズミが出てくる。

「レベル2！ボルトヘッジホッグに、レベル3！ジャンクシンクロンをチューニング！」

三つの輪がボルトヘッジホッグを囲む。

「シンクロ召喚！現れる！ジャンクウォリアー！！」

光差す道から、ガラクタの戦士ジャンクウォリアーが現れる。

「ジャンクウォリアー！ディノゾールに攻撃！スクラップフィスト
！！」

『でああ！はああああ！！だあ！！』

空中に上昇して、急降下してエネルギー状の拳をぶつける。

その威力にディノゾールが爆発する。

俺はDホイールを止める。

「さあ、これからが始まりだ！！」

さてと、これからどう生きていきますか。

G U Y S の仲間

タスケ ジンカSIDE

ディノゾールを倒した翌日の新聞は怪獣とウルトラマンの再来がデカデカと載っていた。

ジャンクウォリアーについては載ってなかったけどな！（TOT）

まあ、そんな事より俺もついにG U Y Sクルーに入れました。

今はトリヤマさんが東京湾から電波が発見されたとかで文句を言っている。

「それで、クルーの補充の方はどうなっている？ちゃんと進んでいるのかね！？こっちはディノゾールの死体の処理で忙しいんだ。ああ、忙しい！忙しい！」

最初から最後まで文句を言って出て行った。

暫くしてサコミズ隊長が口を開いた。

「それじゃあ、自己紹介をしてくれないかい？ジンカ君？」

「あ、はい！タスケ ジンカです！1週間前にG U Y S への入隊を希望し、此処に配属されました！これからよろしくお願いします！」

「ジンカが……俺は、アイハラ・リュウ。たぶん、サコミズさんの代わりに前線で指揮を取ることになるからまあよろしくな。」

「はい！よろしく願いますアイハラさん！」

「リュウでいいぞ。」

「僕はヒビノミライ！これから宜しく！」

「では、自己紹介も済んだ所でミーティングを始めるぞ。」

「で、サコミズさん？何を会議するんですか？」

「朝9時からのGUY'Sの行動さ。ジンカ君は基地に残り異常事態に備えてくれ。」

「はい！」

「ミライとリュウは一般人のスカウトに回ってくれ。」

「了解！」「」

くく朝10時半くく

二人は帰ってきたが、

「僕はそうは思いません！彼らはGUY'Sのクルーに相応しい人たちです！」「」

「……好きにしゃがれ！俺は俺で勝手にやる！」

帰ってきて早々喧嘩はやめてくださいよ……はあああ……

「ちよつと、行ってくる。」

「はい、サコミズ隊長。」

サコミズ隊長が出て行った後、ミライさんも出て行った。

「やっと一人になれるな。」

俺はUSBメモリを取り出した。

「これで誰にも見られないな。」

俺は、キーボードを打ち始めた。

~~~~~11時~~~~~

ミライさんが連れて来た4人（テツペイ、マリア、コノミ、ジョージ）とリュウさん、そして俺はガンフェニックスの塗装作業をした。

休憩中にカレーを食べ、リュウさんが昔の防衛チームのマシンを説明したりして、再び塗装。

あつという間に仕上がり、皆の絆も深まった気がした。

塗装が終了して直ぐに俺は、メインルームでガンフェニックスの状

態を確認していると、警報がなった。

地底からグドンが現れた！

全員が集まり、モニターのグドンを見てミライさんが4人を説得。多少のイザコザがあったが4人も急遽クルーとして戦うことになった。

そんな中俺はと言うと、

「何で、カメラマンなの〜!?!」

「すまないね。そのカメラは怪獣のありとあらゆるデータを取れる完全観察型のカメラなんだ。

グドンから1KM以内でいいからなるべくデータを取ってくれ。」

と、サコミズ隊長からの命令の為、車で移動中です。

それで、リュウさん達は4人の入隊と共にメテオールを使用。しかし、マリアさんが途中で限界に達しリュウさんの方も時間切れで鞭を喰らいそうになる。

「トラップ発動！ヒーローバリア！」

ここで予備知識だが、攻撃反応型のトラップは攻撃の仕方違うトラップを発動しなければならない。

今回の場合、ビーム攻撃ではないのでドレインシールド、マジックシンダー等の反射や吸収は使えず、また、次元幽閉や攻撃の無力化は主に突進や飛び掛り等に使用できる。

体の一部を使ったり、ビームやミサイル等の爆発系を防げる万能なのはヒーローバリアである。

そして、グドンはそのまま次の攻撃をして、ヒーローバリアを破壊する。

鞭がマシンに当たる少し前にメビウスが登場。

庇いながらも何とか何も無い土地に場所を移動した。って、追いか  
けなきゃ！

その後、格闘戦して弱って隙を見せたグドンに、メビウムブレード  
が炸裂！

グドンの鞭を切り落とし倒した。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7007x/>

---

メテオールを超える力

2011年10月19日10時05分発行